商経アドバイス
2026年（令和8年）
7月9日（木）
月・木発行（第6553号）
発行所
㈱商経アドバイス
東京本社
〒101-0031
東京都千代田区東神田2-8-13　アルトビル
TEL03(3862)7931代　FAX03(3866)5047
東京本社eメール
syoukei@aw.wakwak.com
仙台支社
〒989-4206
宮城県遠田郡美里町二郷字慶半12
TEL0229(59)2035　FAX0229(58)0525
eメール：adsendai@bc.wakwak.com
大阪支社
〒581-0001
大阪府八尾市末広町5-4-13
TEL072(973)8026　FAX072(973)8027
eメール：adosaka@bc.wakwak.com
定期購読料　4カ月1万1,830円税込み
（1カ月2,958円、うち消費税219円）
郵便振替口座：00110-3-102671
ホームページ
syoukeiad.com

商経アドバイスから注目の新刊書
「令和のコメ情報ダイジェスト」
新聞記事で動向と変遷を振り返る

□□きょうの記事□□
2面／コスト指標に不安の声（企画部会）
生産性向上を前面に変革（財政審）
3面／新米流通に井口「ウェルライナー」
ヤマタネが連携で棚田の宿泊施設
4面／秋田こまち関東着1万9600円成約

相次ぎ㊊買い戻し要請

自民党 政策見直しへ現場聴取

自民党はこのほど、東京・霞が関で農業構造転換推進委員会（江藤拓委員長＝衆院・宮崎）の会合を開き、6月7日に全国8会場で実施した「水田政策の見直しに関するキャラバン」の結果を報告した。令和9年産以降のコメ政策の見直しに向けた現場との意見交換だったが、足元の需給情勢から政府備蓄米の買い戻しを求める意見が相次いだことが報告された。

全国キャラバンでは、近畿、東北、関東・甲信、北海道、北陸、東海、中国四国、九州沖縄の各ブロックで生産者や農業団体から意見を聴取。9年度から始まる新たな水田政策に対する期待が寄せられる一方、足元のコメ需給の不安定化や支援制度のあり方について要望が相次いだ。

江藤委員長があいさつ

最も多く挙がったのは、政府備蓄米の早期買い戻しを求める意見。昨年の備蓄米放出によって民間在庫が積み上がり、米価の先行きを不安視する意見が東北のほか関東・甲信、北海道、北陸、東海、中国四国、九州沖縄など全国で相次いだ。

生産者からは「9年度の制度議論よりも、まず8年産米の需給と価格を安定させることが重要」との声が挙がり、概算金や民間在庫の水準を含めて需給対策を早急に講じるよう要請が続いた。

新たな水田政策については、十分な予算総額の確保と支援単価の引き上げを要望する意見が全国共通の課題に。畑作も支援対象に加わるのに伴い、水田への支援が薄まることへの懸念が強まされ、「現行以上の支援水準を維持すべき」との要望が目立った。また、再生産が可能な所得を確保できる制度設計や、支援単価を早期に示すよう求める意見も多かった。

生産現場の実情を踏まえた制度設計を求める声も相次いだ。平均単収を支援要件とする仕組みに対しては、「中山間地域や条件不利地では平場と同じ収量を確保できない」として見直しを求める意見が出された。

北海道では麦・大豆の単収評価を地域ごとに設定すべきとの提案もあった。さらに、WCS用稲については、安全性確保のため、農薬や肥料を抑えて栽培している実態があり、生産性だけで評価しないよう求める意見も示された。

このほか、▽中山間地域等直接支払や多面的機能支払の対象拡大と支援単価の引き上げ▽事務手続きの簡素化▽土地改良や水利施設整備への継続支援▽担い手確保への重点投資――などを求める意見が挙がった。

環境保全型農業への直接支払では、5年間などの期限を設けずに継続支援を求める意見や、環境配慮型農業への消費者理解の促進を求める要望もあった。また、資材価格高騰への対策や消費税減税に伴う農業者負担への配慮、メルコスール（南米南部共同市場）との経済連携協定（EPA）交渉で安易な市場開放を行わないよう求める意見も出された。

キャラバンでは地域ごとに課題は異なったものの、共通していたのは、コメ需給の安定を最優先に進めることと、生産者が将来にわたって安心して営農を継続できる水田政策の構築への要望だ。現場からは、7年産米の大幅な需給緩和のもとでは、9年度以降の制度設計に向けた論点整理だけでは水田対策として十分との受け止めが濃厚となっている状況が浮かび上がった形だ。

ブレンド実践を解説

東米商 初の「マエストロ」認定へ

東京都米穀小売商業組合（東米商）は6月27日、東京・丸の内の丸ビルで初年度の取り組みとなるコメのブレンド技術認定「ブレンドマエストロ認定事業」の3日目の講座を実施した。米穀店やコメ卸から9人の受講者が出席し、講義を受講するとともに、面接試験に臨んだ。

この日の講座は、6月13日と14日の講座に続く開催。講義前半では、㈱隅田屋商店（東京都墨田区）の片山真一社長が講師を務め、コメのブレンド技術やブレンド米の品質管理などについて、これまでの2日間の講義の総復習も兼ねて解説。

また、講義の後半では、㈲小池精米店（同渋谷区）の小池理雄代表が講師として、受講者から提出されたオリジナルブレンド検体や、ブレンドマエストロ資格の実践・活用方法などを説明した。

前半の講義で片山氏は、「ブレンド米の品質管理は、作ることと守ること。品質を作ることとは、ブレンド技術によって理想のご飯を設計すること。品質を守るというのは、その設計した品質を維持することと強調。

その上で片山氏は、出来秋からの時間経過に応じた調整方法に加え、▽炊飯加水量の注意点▽等級と品質の関係▽季節の温度差と味覚の変化▽季節に応じた設計変更▽単一米とブレンド米の考え方の整理――などのほか、安定供給のために毎日見るべきポイントを挙げた。

須賀稔理事長

また片山氏は、自らブレンドで実践しているブレンド米設計のポジショニング・マップ（片山メソッド）を紹介。寿司米やチャーハン、朝食用ご飯、カレーライスなどを例に取ってブレンドのポイントを解説した。飲食店における多様なバターンの浸漬について質疑応答も行われた。

小池理雄氏

次いで小池氏からは、ブレンドマエストロ認定の資格取得後のロゴマーク利用や店頭POP、ECサイトなどへの利用方法に加え、表現上の注意点などが説明された。飲食店に対するブレンド提案の手法について、実例も踏まえた解説も加えられた。

片山真一氏

こののち、講義会場とは別室で須賀稔理事長、片山氏、小池氏による面接試験が受講者ごとに行われた。面接結果はその場では知らされず、7月末以降に郵送で受講者に通知されることが伝えられた。

講座修了後の記念撮影

講座の終了に際して須賀理事長は、オリジナルブレンド米のプレゼンに臨む姿勢について評価を述べつつ、受講者全員に感謝の言葉を伝えた。資格が認定された受講者は、ブレンドマエストロの名称表示の使用や商品展開への活用が可能となるほか、各地で講師として活動に参加できることになる。ブレンドを切り口とした業務用米の消費拡大事業として注目される。

全国高温で最盛夏期

1カ月予報 「北湿西乾」も台風注意

気象庁は2日、最新の1カ月予報（今月4日～8月3日）を発表した。北・東・西日本では暖かい空気に覆われやすいため、「向こう1か月の気温は高い」と予測している。とくに予報期間の後半はコメどころを含む多くの地域で最盛夏期に差し掛かる中、北・東・西日本の全域で「気温がかなり高くなる可能性がある」として農作物管理等に注意を呼びかけている。

高温確率は西日本が60%で最も高く、北・東日本も50%と高い。北・東・西日本とも低温確率は最も低く（10%）、ほぼ全国的に有意な高温予測となっている。降水量予測では、北日本が多雨寄りに偏りを持たせた平年並み、沖縄・奄美は多雨傾向（平年並みか多い）だが、東日本太平洋側と西日本全域では少雨傾向（平年並みか少ない）、東日本日本海側（北陸）も少雨傾向が見込まれる。

①7月4日～8月3日の1カ月予報

		平均気温	降水量	日照時間
北日本	日本海側	低10:並40:高50 高い	少30:並30:多40 ほぼ平年並	少40:並30:多30 ほぼ平年並
	太平洋側		少30:並30:多40 ほぼ平年並	少40:並30:多30 ほぼ平年並
東日本	日本海側	低10:並40:高50 高い	少40:並30:多30 ほぼ平年並	少30:並30:多40 ほぼ平年並
	太平洋側		少40:並40:多20 平年並か少ない	少30:並30:多40 ほぼ平年並
西日本	日本海側	低10:並30:高60 高い	少40:並40:多20 平年並か少ない	少30:並30:多40 ほぼ平年並
	太平洋側		少40:並40:多20 平年並か少ない	少30:並30:多40 ほぼ平年並
沖縄・奄美		低30:並40:高30 ほぼ平年並	少20:並40:多40 平年並か多い	少30:並30:多40 ほぼ平年並

（注）数字は各階級ごとの予想確率（%）。北日本は北海道と東北。東日本は関東甲信、北陸、東海。西日本は近畿～九州。

②向こう1カ月の週別気温見通し

	1週目			2週目			3～4週目		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	10	30	60	10	30	60	20	40	40
	高い			高い			平年並か高い		
東日本	20	40	40	10	30	60	10	40	50
	平年並か高い			高い			高い		
西日本	10	40	50	10	40	50	10	40	50
	高い			高い			高い		
沖縄・奄美	30	50	20	30	50	20	30	30	40
	平年並			平年並			ほぼ平年並		

（注）数字は各階級ごとの予想確率（%）。1週目は今月4～10日、2週目は同11～17日、3～4週目は同18～31日。

気象庁は、1カ月予報の発表に際し、▽最も発達したときの中心気圧が低い（勢力が強い）▽発生～消滅の寿命が長期化――など災害級の風雨につながりやすい特徴がある。台風等が梅雨前線を刺激して大雨をもたらす可能性もあり、注意が必要だ。

ただし盛夏期に向けて高温十少雨含みの東・西日本が見込まれる一方、今年はエルニーニョ現象が発生。6月末までの台風発生数が平年の約2倍（8個）と多い。エルニーニョ発生時の台風は、▽最も発達したときの中心気圧が低い（勢力が強い）▽発生～消滅の寿命が長期化――など災害級の風雨につながりやすい特徴がある。台風等が梅雨前線を刺激して大雨をもたらす可能性もあり、注意が必要だ。

精米機のご用命は…
株式会社 杉田工作所
TEL03(3892)9870㈹
FAX03(3892)9868

大幅な増収増益に

神明HD、営業収益81億円超

㈱神明ホールディングス（神戸市中央区）の2026年3月期決算は、増収増益を記録した。子会社の元気寿司を展開するGenki Global Consepts（栃木本社・宇都宮市、東京本社・東京都台東区）の決算発表に際し、「非上場親会社の決算」として公表された。

神明HDの業績は、営業収益81億4600万円（対前期比175・2%）、営業利益5500万円（同228・8%）、経常利益5100万円（143・5%）、当期純利益6900万円（187・9%）。

のようだ。その点が、熊とは大きく異なる。それでも、手塩にかけて育てている農作物を台なしにされるのは腹立たしい。獣害への備えとともに、平年より気温が高くなる見込みという今年の暑い夏を、しっかり乗り切りたい。（史）

時の声

◇連日、熱戦が繰り広げられているサッカーワールドカップ北中米大会。今大会ではハイドレーションブレイク（飲水タイム）が導入されている。前後半の20分すぎに1回、試合を中断して3分程度の水分補給を行う時間を確保する。暑い中でプレーし、消耗の激しい選手の熱中症予防が目的という。

◇暑さ対策はサッカーの試合だけではなく、いまやあらゆる場面で求められている。稲作現場でいえば、ファン付きベストの着用や小まめな水分補給、作業時間帯を早朝の早い時間に移して日中は休憩に充てるなどといった対策が聞かれる。

◇加えて最近は、熊対策も地域によっては必要になっている。ある生産法人代表は、「山沿いで熊が目撃されている。前は秋にしか騒がなかったのだが、いまは毎日のように行政無線で注意を呼びかけている」と語る。

このため、山際の圃場に水の状況を見に行く際には、防御用に熊スプレーを携帯しているそうで、気にしながらの作業という。

◇猪や鹿、猿などによる獣害も報告されている。ただしこれらの動物は、作物に被害を与えても人間を襲うことはまれ

7年買えずに今は身軽

ポジティブなこぼれ話 HOT TOPIC

▽令和6年産は、尻上がりに価格が上昇していく流れだったが、7年産米は春先から高い情報が飛び交い、実際に概算金もびっくりするくらいの価格になった。コロナの時には「安過ぎてかわいそう」と思っていた生産者も、一部の人は今度はずいぶん強気で、とても例年並みの量は買えなかった。

▽ただ、「本当にその値段で売れるの？」とも思っていたところ、周りの人も案の定、売れ行きが悪い。ウチも例年より販売ペースは良くないが、それでも集荷量や在庫が少なかった分、いまは身軽。むしろ秋までに不足しそうな分を、下がった相場で買い足している状況。こうした騒動があると、同じ生産農家でも、冷静で引き続き応援したい人と、浮足ってしまう人とに分かれる。ある意味、人間性や本性が良く分かったことも収穫だった。（北陸A集荷業者）

米糠人気で健康面注目

▽テレビ離れが進んでいると言われているが、瞬間的な影響力は依然として強力だ。ある番組で、軽く煎った糠の健康効果を紹介したところ、糠の売り上げが急増。悲しいかなコメは売れないが、糠は毎日売り切れる。ウチは焙煎し、粉砕機でパウダー状にしてから梱包するのだが、ネックは手作業による袋詰め作業の大変さ。1日せいぜい5～10㌔分作るのがやっとだが、店では焙煎糠などの商品名で50㌘当たり350円に設定している。

値段下げで固定客回帰

▽比較的、高額銘柄米だけを取り揃えて商売してきたので、家庭用でもそれなりに収入のある層が固定客になってくれている実感があった。もちろん、直接に収入を聞いたりはしないが、会話の中で趣味や話す内容から「ハイクラス」であることがにじみ出るので想像がつく。だから来価高騰の影響も最小限にとどまることを内心期待していたが、甘かった。

▽今回は、いわゆるBランク米までもが3万円などという異常な値上がり。10㌔買っていたのを5㌔に減らしたり、特栽米だけを食べていた人が一般米にランクダウンしたりする動きが目立った。思うに、日本円からみると海外渡航費用の値上がりも大きく、あらゆるモノの物価高が影響している。とくコメは値上がり幅が大きく、さすがに富裕層でもためらうところがあったのだろう。

▽あまりに動きが悪いので、やむなくウチでも段階的に精米の値下げを行い、DMでも知らせてきた。専門業者は、㌔単価やご飯にした時のコストはそれほど高くはないと思っているが、買う方としては、1万円出しても10㌔買えないことへの抵抗感が非常に大きかったので、利益を削って、そこはクリアできるように努力してきた。これでリピーターも大分戻ってきた印象がある。8年産ではコメ消費を最優先にし、絶対に売れないような値段にすべきではない。（北陸C米穀店）

文句言わない客に日々感謝

▽令和のコメ騒動ではウチも相場に振り回されたけど（笑）、本当に1店頭のお米は㌔600～650円が主流だが、中米ブレンドの安い400円台から高級銘柄米1200円など価格差に開きがある。とはいえ、価格の幅が広いからこそ、それぞれのお米の特徴を分かりやすく紹介できて会話が弾む。相場に合わせて金額設定を変えたりすることも必要だが、1番大事なのはお客さんとの会話。お客さんの好みをとらえられれば固定客化するだけでなく、気に入ったお客さんがまた次のお客さんを呼んでくれる。（東海・E米穀店）

価格幅広く会話が弾む

▽米価高騰で離れてしまったお客さんはいたが、工夫をこらして何とか新規客を増やせた。ありがたいことに、6月は店の売り上げだけで100万円を超えている。（中部・B米穀店）

▽テレビ離れが進んでいると言われているが、瞬間的な影響力は依然として強力だ。ある番組で、軽く煎った糠の健康効果を紹介したところ、糠の売り上げが急増。悲しいかなコメは売れないが、糠は毎日売り切れる。ウチは焙煎し、粉砕機でパウダー状にしてから梱包するのだが、ネックは手作業による袋詰め作業の大変さ。1日せいぜい5～10㌔分作るのがやっとだが、店では焙煎糠などの商品名で50㌘当たり350円に設定している。

新聞「電子版」お申し込みの翌日から購読可（配信中）
電子版のメリット
紙版よりも早く、カラー版でお届け
新聞のバックナンバーが1年分付き
記事が検索できる機能付き
大きな文字（拡大機能）で読める

ホームページ
◆パソコン、タブレット、スマートフォン（3端末で同時使用可能）でお読みいただけます。
◆電子版からは掲載広告のスポンサー・商品のWEBページにダイレクトにアクセス可能です。

購読料金	電子版のみ（4カ月）	1万1,830円（消費税10%）＝紙版（消費税8%）と同額
	紙版＋電子版セット（4カ月）	1万6,230円 紙版1万1,830円＋電子版4,400円（月1,100円）
申込方法	HPからいつでも申込可能 ➡翌日から配信スタート	ホームページで操作方法、掲載見本などをご確認下さい。 購読料金は原則、申し込んだその月からのご請求となります。

米のダイナミズム
私達は米の持つあらゆる可能性を切り拓きます。
精米設備の事なら、どんな事でもお気軽にご相談下さい。
精米設備のご相談は
コクサイへ
国際精機株式会社
各種プラント/企画・設計・施工
《営業種目》
▼精米機▼計量包装機▼搬送機
▼サイロ▼前後処理装置▼自動制御装置
代表取締役社長　松下良一
TEL(03)3625-1930
FAX(03)3626-1358
http://www.kokusaiseiki.com/
〒130-0011　東京都墨田区石原1―37―2